

# 大阪大学図書館報

Vol.26 No.1 June.1992 (平成4年) 通巻106号

## 目次

- |                               |           |
|-------------------------------|-----------|
| ○「地図室」と1968年のパリ               | ○教官著作寄贈図書 |
| ○大阪大学附属図書館規程の一部改正             | ○会議       |
| ○図書館業務用電子計算機システムの<br>機器更新について | ○日誌       |
|                               | ○人事       |

### 「地図室」と1968年のパリ

高橋 正

1991年のいちょう祭に際して、本学附属図書館本館においてヨーロッパ製古版地図の展示がおこなわれた。しかし、本学にこのような地図が所蔵されていることを知る人は、学外はもちろん、学内においてもそう多くはないものと思われる。

これらの地図は私の記憶に誤りがなければ、山田信夫館長時代、氏の御尽力によって一括購入されたもので、1981、82、84年のいちょう祭の折に展示された。その展示にあたり当時教養部教授（現在名誉教授）であった海野一隆先生により行き届いた展示解説文が著され、さらに展示地図に対する理解を深めるため、関連する主要古地図の写真パネルを作り併せて展示するよう配慮された。昨年展示解説文も海野先生によるものであったが、スペースの関係からパネル類を展示することができなかったのは甚だ残念であった。

現在、これらの地図やパネルは本館書庫の6階に大切に保管されているが、一般の目に触れる機会は少ないといってよいであろう。これらの地図やパネルのことを思い起こすたびに本学に「地図室」があればという思いが募る。

余り知られていないことであるが、本学教養部の人文地理学研究室には、前に地図史の泰斗海野教授がおられた関係から、地図史に関する文献が全国の大学のうちでも一二を争うばかりに所蔵されている。また、私の所属している文学部の比較文化学講座も前に歴史地理学の第一人者で都市図史研究で世に知られた前本学図書館長矢守一彦名誉教授がおられ、地図史関係の文献や資料の整備に力を入れてきた。

本講座が大学院の独立専攻に所属していた当時には、地図史関係の図書を中心として購入計画を立て、実施することは比較的容易であったが、1986年に日本学科の一講座となり、学部学生を受け入れるようになると、地理学の他の分野の図書も購入しない訳にはいなくなり、少ない予算の中から地図関係に当てる金額は次第に少なくなりつつある。

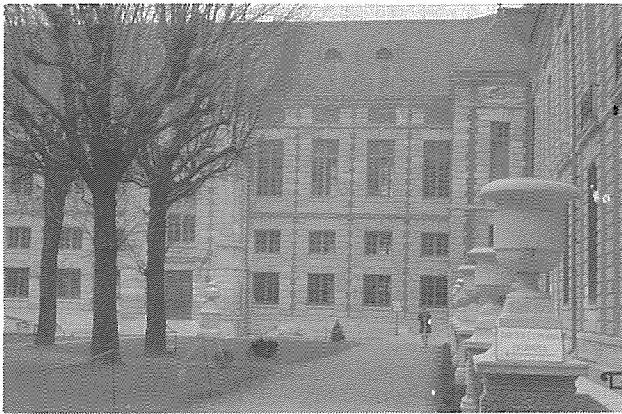
以上のような事情から本学は地図史に関しかなり良質の図書や資料を所蔵している訳であるが、残念ながらその所蔵場所は散在しており、地図専門の目録もない。

文学部では1985年の特定研究費により、外国の地形図やナショナルアトラス、掛地図等の地図類を購入し、これに比較文化学講座の一部の地図を併せ合同研究室に収めその目録を作成して各講座に配布するなど共同利用の便に供しているが、合同研究室の分室の一角を占めるだけで、地図室とはいえない。また、本館にも地図コーナーがあるが、それで十分とはいえない状況である。

そこでこの小文の眼目であるが本図書館に「地図室」を設け、できれば地図類購入のため独自の予算を計上するよう希望する。夢物語かも知れないが現在の地図コーナーにその夢を託している。

「地図室」といえば、ロンドンの大英図書館やパリの国立図書館のそれをまず思い浮かべるが、一大学でそのようなものを持つのを望むことはナンセンスであり、日本学術会議が設立を目ざしている「地図学博物館」の実現に期待をかけることにする。しかし、近年大学の図書館に地図室を設けた大阪外国語大学の例もあり、「地図室」を設けることは全く不可能ということでもないようである。大阪外大の場合は当時の図書館長が地図好きの山口慶四郎教授であったことから実現したようである。本学附属図書館においても本館の増改築が行われる際にはぜひ地図室を設けることについて関係の方々の御検討を願う次第である。

私が地図室の存在意義を強く感じたのは、パリの国立図書館を訪れた時であった。1968年に渡仏した私は、まず、パリ大学の地理学研究所（フォッセ・サンジャック通りの下宿から歩いて2-3分のサンジャック通りとピエール・エ・マリーキュリー通りの角）にその主任J. ドレッシュ教授（地形学者）を訪れたところ早速、国立図書館地図部への紹介状を頂戴することができた。国立図書館の紹介は、本学にも他に適任者が多くおられるので、ここではその地図部（Département des cartes et plans）について見聞したことを簡単に紹介することにしよう。



テュブーフ館〔北側〕  
（正面の4つの大きな窓のあるところが地図室）

同図書館には当時他に、刊本部（D. des imprimés）、受入部（D. des entrées）、定期刊行物部（D. des périodiques）、写本部（D. des manuscrits）、版画局（Cabinet des estampes）、音楽部（D. de la musique）、賞牌・古物部（D. des médailles et antiques）があった。なお、ここではカルトとプランを合せて地図と略称したが、この図書館では縮尺二万分の一以上を

一般にプラン、以下をカルトとしている（Règles Adoptées pour la rédaction des catalogues et la conservation des collections du départ. des cartes et plans, B.N., 1962）。つまり、より大縮尺の地図がプランで、カルトを地図と訳すとすれば、プランは指（差）図に当たるといえよう。

この地図部は、これらの部局のうち最も新しいものの一つであるが、早くは1828年、著名な古地図研究者のジョマール（E. F. Jomard）の指導の下に、シャルルX世の勅令によ

版画部から一度分離独立したものである。しかし、ジョマールの没後は刊本部に属することになり、ようやく1924年に再び独立した（同年パリ地理学協会 Société de géographie の文庫も合せた）。ただ、比較的新しいものは1937年-44年にはパリ大学教授（地理学）のドゥ・マルトンヌ（岩波文庫に収められたヴィダール・ドゥ・ラ・ブラーシュ『人文地理学原理』の編者で彼の女婿）の尽力でパリ大学地理学研究所に保管され、その他は現図書館の構内五ヶ所に分散していた。これから案内する現在の地理部の開室は1954年6月11日のことであった（M. Foncin, Les nouvelles installations du département des cartes et plans de la B. N., Bulletin d'information des bibliothécaires français, No.15, 1954）。

同図書館は、周知のようにセーヌ右岸の第2区、西はリシュリュエ通り、北はコルベール通り、東はヴィヴィエヌ通り、南はプティ・シャン通りに画された街区（昔のマザラン宮 Palais Mazarin の跡地）の全体を占めているが、地図部はその構内の東南隅に位置しプティ・シャン通りに門のあるチューブーフ館 Hôtel Tubeuf にある。チューブーフ館は第二帝政時代、帝室図書館（Bibliothèque Impériale）のあった由緒ある館であるが、現在は他の建物と一続きになっており、しかも、プティ・シャン通りの門は通常閉ざされているため、リシュリュエ通りの正門から地図部へ行くためにはかなりの廻り道をしなければならなかった。

すなわち、まずリシュリュエ通りの正門（ガードマンがいる）を入ると南北45m、東西25mばかりの石畳の中庭（Cour d'honneur）があり、正門すなわち中庭の西側は事務局への玄関があってその背後は定期刊行物部の大閲覧室へ続いている。正門を入れて左手（北側）は写真サーヴィス室への入口があるが、地図室（地図部の閲覧室）へ行くにはこれを背にして右手（南側）にある玄関から入る。

この玄関を入ると右側には絵葉書や出版物の売店が、また左側には閲覧証を交付する受付があり入った突き当りは刊本部の大閲覧室になっている。ここを左（つまり東）に折れて約20m直進すると正面に賞牌・古物部へ通じる美事な大階段（Grand escalier）があるがこれを昇らずその右脇にある小扉から南へ出ると木々の植った南北25m東西40mほどの庭園があり、その南にチューブーフ館が見える（この庭園の西側は時々展覧会場となるギャラリー・マンサールでその後は刊本部の大閲覧室であり、東側はヴィヴィエヌ通りに沿っている）。

チューブーフ館の中央にも玄関があるが、一般の観覧者は右手の小扉から西向きに入ると左手に写本部があり、その突き当たりの薄暗い？階段を昇り右に折れると左手に大きく頑丈な扉がある。これが地図室の入口である。なにしろ20数年前の記憶で甚だ心もとないが、皆さんを無事案内できたかどうか。それにしても地図のありがたさをつくづく感じさせる煩雑さである。

この扉の右側にブザーがあり、これを押すと内側からボタンで扉を開けてくれる。扉を入ると右手（南側）はプティ・シャン通りの門のあるチューブーフ館の中庭（cour）、左手は先ほど横切ってきた庭園（jardin）に面した窓のある明るい閲覧室で、南北6~7m東西15mばかり。入口の扉から真直ぐ正面の書庫への扉（その向に同室の誇るカボットの世界図が掲げられている）へ直進できるよう両側（つまり北向きと南向き）にフォリオ版を見開きにして閲覧できる大机（表面が若干手前に傾斜）が片側8席ずつ並んでいる。つまり16席しかないが閲覧者は常に私1人か2・3人といったところであった。

この二列の机の端には、入口の扉に近い方にはコロネリ Coronelli の天球儀（奥に向かって左手）と地球儀（同右手）を配し、奥には、司書用の小机があって、その背後にガード・ボックスが並んでいた。また、窓と窓の間には開架式の書棚があり、地図研究の基本文献などが収められ、極めて機能的で居心地のよい部屋となっていた。後で気が付いたことであるがこの部屋の様子（机や天球儀等の配置）はヴェネチアの聖ジョルジョ・マジョーレ修道院の図書室と似ているが、この両者がどういう関係にあるのかは分からない。

同室での地図の検索は、当時はまだカードと台帳によっていたが、司書によるとコンピューター化を研究中とのことであった。地図類の保管は、同図書館史の著者として有名なドゥリル (L. Delisle) 氏が 1882 年に導入した版型による分類がなされ、原則として開いたまま水平の状態で置かれているが、A と分類されている 124×88cm より大型の地図は特製の地図掛に吊して保管されている。

閲覧室への書庫からの資料の出し入れは司書 (bibliothécaire) は決して行なわずガルディアン (gardien) と呼ばれる人が専ら行なっていてフランスの職能社会の一端を垣間見る思いであった。司書の上にはコンセルヴァトゥール (conservateur) がおり、その長さがコンセルヴァトゥール・アン・シェフ (c. en chef) でこの両者には地図史の研究者が当たっている。また、最後にここには有名なダンヴィル (J. B. B. d'Anville) のコレクションが所蔵されていることを付記しておこう。

ちなみに 1968 年は前述のドゥリル氏の研究によると、シャルル V 世がルーヴル (もちろん現在のとは異なる) の一角に国立図書館の濫觴となった図書室を設けた 1368 年 (または 67 年) から 600 年に当たり、これを記念して国立図書館所蔵の貴重な写本や賞牌の展覧会が催され、有名なクレスケスの描いたカタロニアの世界図も展示されていた (展示目録は "La Librairie de Charles V, B. N., 1968)。

また、この年はコルベール、ルーヴォワ、科学アカデミーがルイ XIV 世の技官 (後に元帥) であったヴォーバン (S. Vauban) に国家的事業として地図作成を命じた 300 周年に当り、これを記念してグラン・パレに設けられた科学教育博物館とでもいうべき「発見宮」(Palais de la découverte) においてフランス地図 300 周年展が開催され、この国の地図作成の歴史を通覧することができた (展示目録は Tricentenaire de la cartographie française, 1668-1968, Institut Géographique National-I. G. U. は日本の国土地理院に当たる)。

またこの時、ナポレオン I 世 (コルシカが仏領となった 1768 年の翌年生れ) の柩があるアンヴァリッド館において、ヴォーバン展が開催中であった。これは 1668 年ルイ XIV 世の命によりヴォーバンが防備を施したアート (Ath ベルギーの町) の立体模型 (plan-relief) が作成されて 300 周年を記念したものである。

余り知られてはいないがアンヴァリッド館にはヴォーバンがそれ以来作成した要塞都市の立体模型を数多く収めた博物館 (Musée des Plans-Reliefs) があり、また、ナポレオン I 世の柩の傍らにはヴォーバン記念碑がある。ヴォーバンの心臓は、彼の所領にあるバゾーシュ城 (Chateau de Bazoches, セーヌ川の支流ヨヌヌ川上流にある) の墓所から、1808 年 5 月 26 日ナポレオン I 世の命によりアンヴァリッド館に移された (展示目録は Vauban, Tricentenaire de Musée Plans-Reliefs, Exposition Vauban, Invalides, mai-septembre, 1968)。

さらに翌年 69 年の 2 月 8 日から同年 4 月 13 日にかけて、前述の「発見宮」において、地質・鉱物局による「地質図 200 年展」が開催された。これはフランスにおける地質図の祖ともいえるモネ (Monet) の鉱物学地質帳 (Atlas minéralogique de la France) の編纂 200 周年と、1868 年 10 月 1 日の勅令による「地質図販売所」(Service de la Carte Géologique détaillée et des Topographie Souterraines) - 1968 年 1 月 1 日から「地質・鉱物調査局」に併合 - の設立 100 周年を記念したのである (詳細は "Exposition 200 ans de cartes géologiques, Bureau de Recherches Géologiques et Minières, 1969)。

以上のように 1968 年は地図史を学ぶ者にとって極めて意義深い年であり、この年にパリを訪れることができて大変好都合であった。最後にもう一つ幸であったことを記しておく。まだ到着後間もないある日、ソルボンヌ広場とサン・ミシェル大通りの角にある Presses Universitaire de France (文庫クセジュの出版社) の地下の売店で、当時京都大学におられた教養部の堀井教授に偶然声をかけられたことである。

以来、氏が仕事場を構えておられたオテル・ドゥ・ヴィルの図書室を紹介してもらったり、私が1969年9月帰国する際に、多くはソルド（見切り品）で集めた図書のカード作成を手伝ってもらうなど言葉では言い尽くせない程お世話になった。今、共に本学に勤務し、しかも同じ図書館委員として会議に席を連ねていることは、まことに不思議な御縁としか言いようがない。

付記1 フランス各地の地図はローアン館（Hôtel Rohan）にある国立文書館（Archives Nationales）に多く所蔵されている。その目録として“Catalogue général des cartes, plans et dessins d'architecture, Imprimerie Nationale, 1958-”があり、その第一巻は série N としてパリとセーヌ県に当てられている。1987年9月-88年1月には同館所蔵の地図を中心に「フランスの空間展」が開催された（展示目録は“Espace français, vision et aménagement, XVI°-XIX° siècle, A. N.）なおパリの町の古地図については、別稿とする。

付記2 1980年5月24日-同年11月17日、ポンピドゥ・センターにおいて「地図と地球の姿」展が B. N. や I. G. N. の協力で開催され、目録と言うには余りにも美事な“Cartes et figures de la terre, Centre Georges Pompidou, 1980”が刊行された。

（たかはし ただし 文学部日本学科比較文化学講座教授）

## 大阪大学附属図書館規程の一部改正

- ① 中之島分館と薬学部分館が統合されて生命科学分館が発足したことに伴い、第3条第2項が次のように改正され、平成4年4月1日から施行された。
  - 2 分館は、生命科学分館及び吹田分館とする。

注（改正前）

  - 2 分館は、中之島分館、吹田分館及び薬学部分館とする。
- ② 規定の整備のため、第1条、第5条、第7条および第10条が改正され、平成4年4月1日から施行された。そのうち第10条の改正内容は、次のとおりである。
 

第10条 この規程に定めるもののほか、附属図書館の運営及び利用に関し必要な事項は別に定める。

注（改正前）

第10条 図書閲覧に関する規程は別に定める。

## 大阪大学附属図書館閲覧規程の全部改正

- ① 大阪大学附属図書館閲覧規程が、大阪大学附属図書館利用規程に改正され、平成4年4月1日から施行された。
- ② 大阪大学附属図書館利用規程の一部改正があり、平成4年5月20日から施行された。平成4年4月1日から施行され、同年5月20日に一部改正された大阪大学附属図書館利用規程は、次のとおりである。

## 大阪大学附属図書館利用規程

### (目的)

第1条 この規程は、大阪大学附属図書館規程第10条の規定に基づき、大阪大学附属図書館（以下「附属図書館」という。）の利用に関し必要な事項を定めることを目的とする。

### (図書区分)

第2条 附属図書館所蔵の図書（以下「図書」という。）を次の各号に区分する。

- 一 一般図書
- 二 参考図書
- 三 貴重図書

### (利用資格)

第3条 附属図書館を利用することができる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- 一 本学の教職員（以下「教職員」という。）
  - 二 本学の学生（以下「学生」という。）
  - 三 本学の名誉教授
  - 四 前各号に掲げる者のほか、本館にあっては館長、分館にあっては館長又は分館長がそれぞれ許可した者
- 2 内前項第四号に規定する者の利用については、教職員及び学生の利用に支障のない範囲内とし、制限されることがある。

### (図書館利用者票)

第4条 館長及び分館長は、前条第1項各号に掲げる者で附属図書館を利用しようとする者（以下「利用者」という。）に対し、図書館利用者票を交付する。

- 2 利用者は、附属図書館を利用するとき、図書館利用者票を携帯し、係員から提示を求められたときには、これに応じなければならない。

### (開館時間)

第5条 開館時間は、午前9時から午後5時までとする。

- 2 前項の規定にかかわらず、館長又は分館長が必要と認めるときは、開館時間を変更することがある。

### (休館日)

第6条 休館日は、次のとおりとする。

- 一 日曜日及び土曜日
- 二 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
- 三 大阪大学記念日（5月1日）
- 四 年末年始（12月28日から翌年1月4日まで）

- 2 前項の規定にかかわらず、館長又は分館長が必要と認めるときは、臨時に開館又は閉館することがある。

### (利用区分)

第7条 附属図書館の利用を次の各号に区分する。

- 一 管内閲覧（以下「閲覧」という。）
- 二 館外貸出し
- 三 文献複写（以下「複写」という。）
- 四 参考調査
- 五 相互協力

## (閲覧)

第8条 利用者は、本館及び分館（以下「各館」という。）の定めるところに従い、館内の所定の場所で図書を閲覧することができる。

## (館外貸出し)

第9条 利用者は、各館所定の手続きを経て図書の貸出しを受けることができる。ただし、利用者のうち第3条第1項第四号に規定する者については、館長又は分館長が特別に許可した場合に限り、貸出しを受けることができるものとする。

- 2 貸出しの冊数及び期間については、館長又は分館長が別に定める。
- 3 貸出しを受けた図書は、他人に転貸してはならない。
- 4 利用者がその資格を失ったときは、貸出しを受けた図書を直ちに返却しなければならない。
- 5 館長又は分館長が特に必要と認めたときは、貸出期間内であっても図書の点検又は返却を求めることがある。

## (禁帯出の図書)

第10条 次の各号に掲げる図書の貸出しは、行わない。ただし、館長又は分館長が特に支障がないと認めた場合は、この限りではない。

- 一 参考図書
- 二 貴重図書
- 三 その他館長又は分館長が指定する図書

## (複写)

第11条 利用者は、教育又は研究の用に供することを目的とする場合に限り、図書の複写を依頼することができる。

- 2 前項の複写に関し必要な事項は、大阪大学附属図書館文献複写規程の定めるところによる。
- 3 貴重図書の複写又は撮影を依頼しようとする者は、館長又は分館長の許可を受けなければならない。

## (参考調査)

第12条 利用者は、学術情報に係わる調査を依頼し、情報の提供を受けることができる。

- 2 利用者は、学術情報の検索を行うことができる。

## (相互協力)

第13条 利用者のうち第3条第1項第一号から第三号に規定する者は、教育、研究又は学習上必要があるときは、国内及び国外の大学又はその他の機関の図書館及び図書の利用のあっせんを依頼することができる。

- 2 館長又は分館長は、本学以外の研究、教育機関から、附属図書館及び図書の利用についての依頼があった場合は、これに応ずることができる。

## (公用貸出し)

第14条 各部局の教室、研究室、資料室及び事務室に常備する図書については、所定の公用貸出しの手続を経るものとする。

- 2 公用貸出しの期間は、1年とする。
- 3 館長又は分館長が特に必要と認めたときは、貸出期間内であっても図書の点検又は一時返却を求めることがある。

## (機器及び施設の利用)

第15条 附属図書館備付けの機器及び施設の利用については、館長又は分館長が別に定める。

(弁償)

第16条 利用者は、図書、機器又は設備等を紛失、汚損又はき損したときは、その損害を弁償しなければならない。

(罰則)

第17条 館長又は分館長は、附属図書館の規程等又は指示に従わない者に対し、利用を制限することができる。

(雑則)

第18条 この規程に定めるもののほか、附属図書館の利用に関し必要な事項は、本館においては、豊中地区運営委員会の議を経て館長が、分館においては、分館又は地区運営委員会の議を経、かつ、館長と協議の上、分館長が、別に定める。

附 則

この規程は、平成4年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成4年5月20日から施行する。

## 図書館業務用電子計算機システムの機器更新について

はじめに

附属図書館における業務用電子計算機システムは、1972（昭和47）年に図書館専用機による業務の電算化に着手して以後、1983（昭和58）年と1986（昭和61）年にリプレースが行われているが、このたび5年ぶりにシステムの更新が行われ、本年（平成4年）4月から新システムにより全面稼働している。以下では、今回の更新システムについてその概要を紹介する。

今回の更新では、次の2点を基本方針とした。第1は、これまでの業務システム化のメリットを失うことなく限られた電算資源の最適な配分を行うこと、すなわち、電算化の当初から実施してきた支払・会計業務の図書館集中処理によるスケールメリットを失うことなく、検索・利用者サービスを中心とする図書館活動に重点的に投資していくこと。第2は、できるだけ汎用性のある図書館業務システムを構築することにより業務処理の標準化をはかることである。その結果、下記目的の実現が可能になった。

- ① 汎用的パッケージ・ソフトの導入
- ② 目録・検索端末の増設と全学オンライン総合目録の拡充
- ③ ホスト処理機の処理能力の強化
- ④ 補助記憶装置の増設
- ⑤ 業務用通信経路の簡素化と利用者検索用回線の増設および性能強化
- ⑥ 自動運転装置の導入によるサービス／運用時間の確保と省力化

システム構成

更新システムの機器構成の概要は次のとおりである（システム構成図参照）。

ホストマシンは、生命科学図書館（吹田地区）にある日本電気製中型汎用コンピュータ ACOS 3400-20（主記憶16MB 5.4MIPS ディスク16.11GB）である。豊中地区の本館、基礎工学部、理学部、吹田地区の生命科学図書館、吹田分館、人間科学部の各館室にはホストに結ばれたオフィスプロセッサ S3100/S50またはS40があり、そ



の配下に目録端末 73 台（うち利用者端末 20 台）がある。また、吹田地区の産業科学研究所など 5 部局には N 5 2 0 0 / 0 3 がそれぞれホストと構内回線で結ばれている。さらに、学内の研究室・図書室などにあるパソコンなどの端末による検索用として構内・公衆回線が 7 回線用意されている。

システムを構成する各業務（サブシステム）の種類と概要

① 蔵書検索（O P A C）

目録管理で入力・蓄積された本学所蔵の図書、雑誌の総合目録データベースを学内利用者に公開し、目録・所在・貸出情報を提供する。図書館備付けの利用者用端末による検索のほか、学内の研究室・図書室などにあるパソコン等の無手順端末からも、電話回線（構内・公衆）をとおして検索することができる。

② 目録管理

図書および雑誌の学内総合目録データベースの形成に係る業務を行う。図書目録と雑誌目録に分かれる。ここで形成された総合目録データは、蔵書検索サブシステムに反映され利用者用オンライン閲覧目録として目録・所在情報を提供する。目録管理は、学術情報センターとの接続を前提としており、学術情報センターの提供するオンライン目録システムを利用して目録データの入力を行い学内総合目録データベースに取り込むとともに、目録・所在情報サービスをとおして全国総合目録データベースの形成に寄与している。

③ 図書管理

単冊図書および継続図書の受入業務に係る重複調査、発注、検収、登録、装備、統計などの処理を行う。図書管理で確定した受入データは、会計管理に引き継ぎ、会計支払処理を行う。

④ 雑誌管理

雑誌の受入（購入、寄贈その他）に係る一連の業務のうち、予約発注（契約）、受付、製本、前金払外国雑誌一括購入、統計などの処理を行う。雑誌管理で確定した受入データは、会計管理に引き継ぎ、会計支払処理を行う。雑誌管理で必要とする雑誌の書誌情報は雑誌目録管理で作成する。

⑤ 会計管理

図書および雑誌の会計支払業務に係る処理を行う。図書管理および雑誌管理の各業務で処理済の支払の確定したデータを引き継ぎ、会計帳票の出力、事務局予算執行管理事務システムへの支払決議書データの引渡し、予算管理、統計帳票作成などの処理を行う。

⑥ 閲覧管理

図書館の利用者サービスのうち、在庫管理方式による資料の貸出管理、資料の所在管理、利用者管理、貸出対象資料のデータ管理、閲覧統計作成などの処理を行う。

⑦ I L L

学術情報センターの I L L（図書館間相互貸借）システムを利用し作成された I L L データを学内に取り込み、受付帳票の作成などの学内処理を行う。

⑧ 文献複写

図書館間相互協力業務に係る、複写データ処理センター業務（国立大学および国立高等専門学校間の文献複写料金の費用相殺処理）および文献複写経費業務（文献複写などの経費データ入力、学内校費移算処理）を行う。

⑨ 共通ファイル管理

各業務で扱うコード、データなどのうち、利用者、予算、所在、部局、各種テーブル、エラーメッセージ、各種番号など、共通に使用するものの管理に係る処理を行う。





## 吹田分館

中野 秀男 (工・助教授)

テキストC

中野 秀男著

(昭晃堂 1992)

久保 司郎 (工・教授)

逆問題 (計算力学と CAE シリーズ 10)

久保 司郎著

(培風館 1992)

浜口 智尋 (工・教授)

Hot carriers in semiconductors.

(Proceedings of the 7th International Conference, (HCIS-7) 1-5 July 1991, NARA, JAPAN)

C. Hamaguchi and M. Inoue (ed.)

(Adam Hilger 1992)

千原 国宏 (基礎工・助教授)

パソコン世代の電子回路入門

千原 国宏著

(コロナ社 1991)

センサー変換原理から

コンピュータ応用計測まで

千原 国宏著

(コロナ社 1991)

白井 良明 (工・教授)

生物にやさしい知能ロボット工学

白井 良明他著

(実教出版 1992)

二井 将光 (産研・教授)

生体膜工学 (Maruzen Advanced Technology 生物学編)

二井 将光編

(丸善 1991)

## -基礎工学部図書室-

田村 進一 (医・教授)

情報工学基礎論 (電子・情報工学講座  
17 卷)

田村 進一著

(培風館 1992)

佐藤 俊輔 (基礎工・教授)

Noise in physical systems and 1/f  
fluctuationsT. Musha, S. Sato, and M. Yamamoto  
(ed.)

(Ohmsha, Ltd. 1992)

## -理学部図書室-

櫛田 孝司 (理・教授)

Optical properties of solids: proceed-  
ings of the Taiwan-Japan Workshop on  
solidstate optical spectroscopy, National  
Central University

Chung-Li, Taiwan, December 12-15, 1990

K. C. Lee, P. M. Hui, and

T. Kusida (ed.)

(World Scientific 1991)

## -歯学部図書室-

円根 一夫 (歯・講師)

Interfaces in medicine and mechnics.  
vol.2

K. R. Williams, A. Toni,

J. Middleton, amd G. Pallotti (ed.)

Contributors, Kazuo Tanne, et al.

(Elsevier 1991)

赤井三千男 (歯・教授)

赤井三千男教授退官記念誌

(赤井三千男教授ご退官を祝う会 1991)

■■■■■■ 会 議 ■■■■■■

豊中地区運営委員会

4. 3. 13 (金) 13:30～14:30 (本館会議室)

1. 次年度豊中地区運営委員会委員長の選考を行い、文学部高橋正教授を選出した。
2. 「本館公用貸出し取扱い要項(案)」他を審議した。

分館長会議

4. 5. 7 (木) 15:00～16:05 (本館館長室)

1. 完全週休2日制実施への対応について協議した。

図書館委員会

4. 5. 7 (木) 16:30～17:26 (本館会議室)

1. 完全週休2日制実施への対応について協議し、基本方針として土曜閉館を決定した。

分館長会議

4. 6. 9 (火) 13:30～14:40 (本館会議室)

1. 生命科学分館運営委員会から提出された、生命科学分館の土曜臨時開館実施案について審議・了承した。

中之島分館運営委員会

生命科学図書館ワーキンググループ会合 [合同会議]

4. 3. 11 (水) 15:00～17:00 (生命科学図書館会議室)

1. 生命科学分館施設利用要項について  
個室及びグループ室利用要項案を審議、案をもとに細部を整備して、分館長裁定で4月から実施することとした。
2. その他  
館内呼出放送について苦情の投書があり、意見交換の結果、館内呼出放送は原則として行わないこととした。

生命科学分館運営委員会

4. 5. 13 (水) 15:00～17:00 (生命科学分館会議室)

1. 完全週休2日制実施への対応について  
土曜臨時開館実施案を協議・策定し、分館長会議に提出することになった。

吹田地区運営委員会

4. 5. 18 (月) 15:00～16:10 (吹田分館会議室)

1. 吹田地区運営委員会規程第4条に基づいて、田中分館長が運営委員会委員長に選出された。
2. 完全週休2日制の対応について、5月7日の図書館委員会の議決を踏まえ、吹田分館は土曜日を閉館とすることを確認した。

■■■■■■ 日 誌 ■■■■■■

4. 3. 9 外国雑誌センター館会議 (東京大学)
4. 3. 11 中之島分館運営委員会・生命科学図書館WG合同会議 (生命科学図書館)
4. 3. 13 近畿地区国公立大学図書館協議会 講演会 (京都大学)
4. 3. 13 豊中地区運営委員会 (本館)
4. 4. 14 日本医学図書館協会理事会 (慶応大学)
4. 4. 20～22 新入生対象図書館利用オリエンテーション (本館)
4. 4. 28 近畿地区国公立大学図書館協議会企画委員会 (京都大学)
4. 4. 28 近畿地区国立大学図書館協議会 (京都大学)
4. 4. 28 日米ワンデイセミナー実行委員会 (京都大学)
4. 5. 1 いちよう祭 展示会 (本館)
4. 5. 7 分館長会議 (本館)
4. 5. 7 図書館委員会 (本館)
4. 5. 13 生命科学分館運営委員会 (生命科学図書館)
4. 5. 14 大型コレクション収書計画打合せ会 (本館)
4. 5. 18 吹田地区運営委員会 (吹田分館)
4. 5. 25 国立大学附属図書館事務部課長会議 (東京医科歯科大学)
4. 5. 26 国立大学図書館協議会賞受賞者選考委員会 (東京大学)
4. 5. 26 国立大学図書館協議会常務理事会 (東京大学)
4. 5. 27 国立大学図書館協議会理事会 (東京大学)
4. 5. 28～29 日本医学図書館協会総会 (北九州市)
4. 6. 9 分館長会議 (本館)
4. 6. 16 近畿地区国公立大学図書館協議会総会 (京都大学)

■■■■■ 人 事 ■■■■■

異動前の所属・職名	氏名	異動内容	発令年月日
		(昇任)	
情報管理課図書館専門員	岩本 速雄	情報管理課課長補佐	4. 3. 16
情報サービス課雑誌情報掛長	岩淵 泰幸	〃 図書館専門員	4. 4. 1
〃 理学情報掛	水谷 幸子	医学情報課図書目録情報掛長	〃
		(配置換)	
医学情報課図書受入掛長	石井 道悦	情報管理課図書受入掛長	4. 4. 1
情報管理課図書受入掛長	喜多 吉一	情報サービス課資料運用掛長	〃
情報サービス課資料運用掛長	河野 富行	〃 雑誌情報掛長	〃
医学情報課雑誌情報掛長	宮内 修	医学情報課図書受入掛長	〃
情報管理課洋書目録情報掛長	近藤 勝一	〃 雑誌情報掛長	〃
医学情報課参考調査掛長	今井 義雄	〃 資料運用掛長	〃
吹田分館資料運用掛長	塩見 橘子	〃 参考調査掛長	〃
医学情報課参考調査掛主任	平林 京子	〃 資料運用掛主任	〃
工学部	原田 多子	情報管理課和書目録情報掛	〃
医学情報課資料運用掛	松原美重子	情報管理課システム管理掛	4. 4. 1
〃 雑誌情報掛	岡田 正章	情報サービス課理学情報掛	〃
薬学部(薬学部分館)	吉田 芳枝	医学情報課図書目録情報掛	〃
情報管理課洋書目録情報掛	濱口 郁子	〃 資料運用掛	〃
情報管理課会計掛長	野元 猛	学生部学生課総務掛長	〃
情報管理課和書目録情報掛	伊藤 裕紀	人間科学部	〃
医学情報課雑誌情報掛	江川実喜子	基礎工学部	〃
		(採用)	
	木野 綾子	文部事務官 情報管理課洋書目録情報掛	4. 4. 1
	久保山 建	〃 医学情報課雑誌情報掛	〃
	岸本 律子	事務補佐員 情報管理課庶務掛	〃
	坂元 晶	〃 情報サービス課参考調査掛	〃
	南 宏輝	〃 〃 資料運用掛	〃
	山口 僚子	〃 医学情報課雑誌情報掛	〃
	泉 旭洋	〃 〃 資料運用掛	〃

異動前の所属・職名	氏名	異動内容	発令年月日
	木本 陽子	事務補佐員 吹田分館目録情報掛	4. 4. 1
	畑 真司	” ” 資料運用掛	”
	腰前 利樹	” ” ”	”
	林 由佳子	” 情報管理課和書目録情報掛	4. 4. 16
		(転入)	
上越教育大学教務部図書課長	郡司 良夫	情報管理課長	4. 4. 1
奈良国立文化財研究所 庶務部会計課経理係長	新湯 淳史	情報管理課会計掛長	”
兵庫教育大学 教務部図書課目録情報係長	宮田 正徳	吹田分館資料運用掛長	”
兵庫教育大学 教務部学生課学生宿舍係主任	横山 勲	情報管理課庶務掛主任	”
名古屋大学附属図書館情報システム課	藤原 誠	情報サービス課資料運用掛	”
		(転出)	
情報管理課長	辻 英雄	長崎大学附属図書館事務部長	4. 4. 1
情報管理課課長補佐	岩本 速雄	宮崎医科大学教務部図書課長	”
医学情報資料運用掛長	柳瀬 吉雄	琉球大学附属図書館 情報サービス課参考調査係長	”
情報管理課庶務掛主任	森嶋 正則	国立曽爾少年自然の家庶務課会計係長	”
情報サービス課資料運用掛	奥田 正義	奈良先端科学技術大学院大学 学術情報課情報管理係長	”
医学情報課図書受入掛	金森 孝之	兵庫教育大学教務部図書課目録情報係長	”
		(退職)	
事務補佐員情報サービス課資料運用掛	杉山 祐子		4. 3. 30
” 医学情報課雑誌情報掛	笠井美奈子		”
” 医学情報課資料運用掛	西垣 健一		”